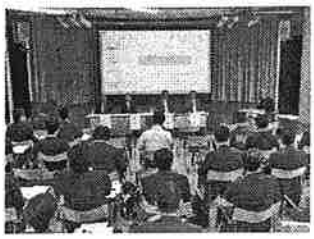
2014年10月28日（火曜日）建設速報

コンクリート診断技術向上へセミナー開催

五感を磨き人間的な感覚で診断を—コンクリート診断士会

県コンクリート診断士会が主催する26年度技術セミナーが17日、新潟市内で開催された＝写真。会には会員など約70名が参加。「コンクリート診断技術のこれまで・これから」と題したパネルディスカッションでは、パネラーのほか、会場の参加者とも積極的に意見を交わし、コンクリート診断技術の向上と若者に魅力のある企業づくりへ意義のある議論の場となった。

広瀬秀・広瀬歯科医院長をメインパネラー、地濃茂雄・新潟工科大学教授をコーディネーターとするパネルディスカッションには、雨池誠・元新潟日報社編集委員のほか、丸山聡・㈱ダイアテック代表取締役社長、遠藤潤・㈱クリエイトセンター常務取締役が参加。コンクリート診断について「医学では病気を予防するために検査をしているがコンクリートについても同様に行うべきなのか」「また、過剰に検査を行うことによる弊害もあるのでは」と、コンクリート診断の理想と現実についての疑問が挙がった。これを受けて会場からは「“診断”することはまさに病院と同じで、この先もコンクリート構造物の老朽化予防へ積極的に診断していくべき」との意見があった。また、雨宮氏は、「経験のある医師は全体のレントゲンを診ることで身体の違和感を感覚で捉える事がある」として「コンクリート診断についても五感を磨いて人間的な感覚を活かしていくことがポイントになるのではないか」と指摘。さらに、広瀬氏は「コンクリートは人間の造るもので人間の感覚で診断することが重要」とした上で「医学も含め予防が非常に重要な要素となる」との見解を示した。このほか、生コンのスランプについて生コン業者からは「スランプがでているかどうかは長年の“経験”や“勘”も大事な要素だ。発注者にはこの“感覚”を理解してもらいたい」との声が挙がっていた。



また、パネルディスカッションに先立って「人間身体、五感の話」をテーマに広瀬氏が講演。生きていくために必要な“五感”についてコンクリート診断のヒントとなり得るよう医学的知見からわかり易く解説した。

さらに、地濃教授が「コンクリートと診断」と題して講演。「コンクリートは生き物」と強調した上で「職人の“勘”や感覚的なものをうまく利用して間違いのない品質を確保することが重要」と力強く訴えた。